

日本の議員が人間仏教を基に東京佛光山寺で祈願

東京都は4月26日に区議会議員選挙が行われました。19日に板橋区議会議員の長瀬達也氏一行8名が当選祈願のために東京佛光山寺に来ました。その中には名古屋市長の河村たかし氏もいました。如昱法師が吉祥楽舞のメンバーと信者を引率して歓迎しました。道場は美味しい懐石料理を用意して接待しました。昼食後、覚用法師が祈願法要を行いました。参加者は約50名でした。

長瀬議員は、「これまで日本の仏教はずっと葬式仏教と称されていますが、佛光山の人間仏教の理念は人を救い、人助けをする宗教です。星雲大師の理念を処世の規範とし、大師の精神を発揮することに努め、人間仏教の理念を区議会に持って行き、人々のためになることをします」と述べました。

「千僧万衆祝仏誕、一心十願報母恩」（千僧万衆が仏陀の生誕を祝い、一心に十願をもって母に報恩する）の国定仏誕節及び母の日の祝賀式典に参加するために、5月8日、長瀬議員は御母堂と共に台湾へ行きます。長瀬議員はその日、議員バッジを付けて皆様とお会いしたいと述べました。

覚用法師は三つの言葉を贈りました。(1) 長瀬議員が当選祈願の場所を神社ではなく佛光山寺にしたことは、仏教への確たる信心を示すことでもあり、大きな力を得ることができるでしょう。(2) 東京佛光山寺に初めて日本の公務員が国の泰平と民衆の安寧を祈願しに来ました。これは社会貢献の意義を深め、また本人にも素晴らしい歴史を残すことになります。(3) 選挙期間中、長瀬議員が自転車で雨にも風にも負けぬ精神で走り続けている姿は、人々を感動させています。護法神のご加護が得られるでしょう。

最後に覚用法師は、長瀬議員が全て順調で、何事も思い通りになるようにと、大師の「如意」の書を贈りました。東京佛光山寺は20年間日本で仏法を弘め、法水を衆生に注いできましたが、それが徐々に肯定され、信仰の花が咲き始めてきました。

